ボーリング柱状図

調　　査　　名　国道182号　道路災害防除事業（法面対策）に伴う業務委託

事業・工事名

ボーリングNo.	5	1	3	3	7	2	4	5	0	0	4

シートNo.　4

ボーリング名	A139B1	調査位置	広島県福山市加茂町外	北　緯	34°37’05.2400″
発注機関	広島県東部建設事務所	調査期間	平成29年 1月 6日～平成29年 1月20日	東　経	133°19’01.0400″
調査業者名		主任技師	現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	TP 451.42m	角度 180° 上 90° 下 0° 0°	方向 0°北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配 0° 水平0° 鉛直 90°	
総掘進長	12.00m	使用機種	試錐機：東邦製D-0型	ハンマー落下用具	半自動型
			エンジン：ヤンマー(株)製 TF-70V型	ポンプ	東邦製BG-3型

標高 m	深度 m	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分
450.72	0.70	表土	茶						自然地山および造成などによる未固結層が分布する。砂・細礫で構成されている。	
449.02	2.40	風化土	黄茶	E	VI	d	ε	4	風化著しく土砂状主体である。土砂は固結しており岩組織を残すところあり。	D
446.42	5.00	強風化輝緑岩	黄緑灰	D	IV	c	γ	2	全体的に褐色に変色し亀裂が発達している。亀裂角度は、40～50度を呈している。線状脈も発達しており、亀裂面と線状脈が交わり容易に砕ける。	CL
		風化輝緑岩	淡白青	D	III	c	γ	2	コア肌比較的新鮮であるが亀裂が発達している。亀裂角度は30～40度を主体としており、亀裂面沿いに細礫を挟む箇所あり。線状脈が発達しており、ハンマーの軽打にて容易に砕けサイコロもしくは岩片状となる。	CL
439.42	12.00	風化輝緑岩	淡白青	C	III	b	β	2	下層より泥岩の薄層を挟む。（傾斜角は40度もしくは5度程度） 酸化区間（赤茶変色） GL-6.6～6.8m区間,GL-7.4～7.5m区間,GL-9.6～9.7m区間,GL-10.5～11.0m区間	CL

深度区間 m	最大コア長 cm [RQD %] (コア採取率 %)
0–1	(100)
1–2	(100)
2–3	7[0](100)
3–4	14[14](100)
4–5	11[11](100)
5–6	9[0](100)
6–7	15[15](100)
7–8	10[10](100)
8–9	27[47](100)
9–10	18[33](100)
10–11	10[20](100)
11–12	9[0](100)

孔内水位／測定月日
1/7 1.25
1/20 4.30
1/19 5.36
1/21 7.65
1/23 10.13

標準貫入試験 深度 m	打撃回数／貫入量 回/cm
1.15～1.45	49/30
2.15～2.39	50/24
3.15～3.28	50/13
4.15～4.37	50/22
5.15～5.20	50/5
6.15～6.30	50/15
7.15～7.19	50/4
8.15～8.23	50/8
9.15～9.26	50/11
10.00	貫入不能

掘進月日	掘進速度 cm/時	孔径／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 MPa	回転数 rpm	送水圧 MPa	送水量 l/分	排水量 l/分
	50	86／ケーシング	S/M	0	0	0	無水/0	0
1/6	50		W/D	5	180	0	清水/3	2
1/7	57			5	180	0	清水/4	3
1/19	35			5	180	0	清水/4	3
1/23	55	66／泥水	W/D	5	180	0	清水/3	2